

活動事例紹介

巨理荒浜地区資源保全隊広域協定運営委員会（巨理町）

地区概要	取組面積：831.8ha（田691.5ha，畑140.3ha） 資源量：開水路45.1km パイプライン - km 農道36.3km ため池 2箇所
平成30年度交付金	農地維持支払交付金 8,086千円 資源向上支払（共同活動）交付金 6,469千円 資源向上支払（施設の長寿命化）交付金 -千円
地域の概要	本地区は巨理町中央部に位置し、西は阿武隈高地に連なる丘陵地、東は仙台平野を構成する平坦な地形となっている。市街地が中心部に置かれており、西部は果樹栽培が盛んであり、東部は水田を中心とする優良農地等の自然が広がっている。
取組みの概要	基本的な活動として、用排水路及びため池や農道等の草刈り・江払い、施設の点検や農道の砂利補充などを行っている。 また、町で行っている事業と連携し、清掃活動や植栽活動等の活動にも力を入れている。
取組みによる効果	地域資源について、これまでの個人管理では適切な保全管理が困難であることから、地域での共同活動による管理を推進したことで地域内での保全活動の取組について理解が浸透してきた。また、平成31年度より組織の広域化を図ったことで、交付申請や実績報告等の煩雑だった事務負担の軽減や、各集落間での工事費等活動費の調整など効率的な活動が可能となった。
今後の課題	組織における構成員の高齢化や東日本大震災による沿岸部集落の移転など、特に沿岸地域での保全活動が困難になってきている。 また、転入者（非農家）の増加による混住化が進み、今まで慣例的に行ってきた保全活動へ理解を求めることが難しくなっている。※広域化前の課題を記載
その他	巨理町は、平成19年度の農地・水・環境保全向上対策（第1期対策）から広域活動組織として、町内に6組織を設立し、町内全域を対象に本事業への取り組みを実施している。 平成31年度からは、東日本大震災による地域状況の変化や、より効率的な活動を勘案し、元々広域組織だった6組織を更なる広域化により3組織にすることで、課題解決に取り組んでいる。



①水路の江払い活動風景



②水路の江払い活動風景（重機使用）



③活動計画策定会議風景



④水路の草刈り活動風景



⑤植栽活動風景



⑥町内の清掃活動風景